令和４年度事業報告

Ⅰ　総会及び役員会

１　総会

（１）令和４年度定時総会

日時：令和４年６月２２日

（２）令和４年度臨時総会（書面による総会）

日時：令和４年１２月１６日

２　役員会

（１）令和４年度第１回理事会

日時：令和４年６月７日

（２）令和４年度第２回理事会（書面による理事会）

日時：令和４年６月２２日

（３）令和４年度第３回理事会（書面による理事会）

日時：令和４年１１月１５日

（４）令和４年度第４回理事会

日時：令和５年３月１６日

３　監事監査

令和４年６月２日に令和３年度に係る事業報告、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書についての監事監査を実施した。

なお、監事監査に先立ち公認会計士による会計調査を令和４年５月２６日に実施した。

Ⅱ　一　般

１　会員の動き

令和４年度末の会員は、入会預り金会員５２会員、会費会員５会員、賛助会員１７会員（増減なし。）。

２　団体の組織運営

昨年度に引続き、重複する会員が多い中央畜産会と共通する課題について情報交換を行った。

３　役職員

（１）役員

令和４年度の役員は、理事１２名、監事２名の１４名である。

（２）職員

令和４年度の職員は、管理部５名、事業部１３名の計１８名（年度末の人員、非常勤参与及び育児休業職員を含む。）である。

Ⅲ　要請活動等

予算･税制改正･畜産物価格や関連対策について、政策に反映できるよう農政推進協議会、日本の畜産ネットワーク等関係団体と連携を取りながら各種の活動を行った。

Ⅳ　肉用牛生産振興のための事業の実施

１　肉用牛経営安定対策補完事業（うち肉用牛生産基盤強化等対策事業）（２８，６７１千円）

（１）肉用牛生産基盤強化推進事業（１，６３０千円）

高齢化等に対処する肉用牛ヘルパー組織への支援のため、以下の事業を実施した。

①　肉用牛ヘルパー組織等強化推進

肉用牛ヘルパー組織としての役割と体制強化を図るため、地域での活動実態や課題を踏まえつつ、肉用牛ヘルパー事業の円滑な推進指導を図った。また、自主活動分を含めた全国の肉用牛ヘルパー組合の活動状況を把握するため、令和４年７月１日現在での実態調査を実施した。

②　肉用牛振興推進指導

事業の適正を期するため、全国７府県の実施主体に現地調査を実施した他、北海道と九州２県の実施主体に対し、郵送により事業に係る台帳・証拠書類等（写し）の提出を求めて、実施事業の審査を実施した。

③　和牛遺伝資源流出防止周知徹底対策

和牛遺伝資源（精液、受精卵等）の国内活用や海外への流出防止を図るため、精液保存容器にステッカーを貼付することとし、前々年度にステッカーを作成・配布しているが、今年度は追加配布要望がなかったため、事業の実施はなかった。

（２）地域の特色ある肉用牛振興推進事業（２７，０４１千円）

地方特定品種全国推進会議をオンライン方式により開催し、コロナ禍における各地方特定品種の現況と課題等について意見交換や情報共有を行った。

（３）一産取り肥育普及・定着支援事業（０千円）

本事業の要望が少ないことを勘案し、未実施とした。

２　食肉流通改善合理化支援事業（うち国産食肉等新需要創出緊急対策事業）（８，６２９千円）

商品性創出事業においては、生産・流通・消費に係る関係者を対象とした委員による協議会を開催するとともに、生産出荷体制の確保を図る取組みとして、東京食肉市場における枝肉取引を目指して、市場関係者による日本短角種の産地調査とともに日本短角種産地と東京食肉市場買参人等関係者による意見交換会を開催し、取引に当たっての市場側の要望等を整理した。

また、国内の販路開拓に係る取組みとして、日本短角種及び褐毛和種の産地や肉質の特長等を紹介するポスターを作成したほか、レストランのシェフ等による日本短角種及び褐毛和種産地の現地調査、産地関係者との意見交換を行うとともに、これらの牛肉を使用したメニューによる「短角牛（あか牛）フェア」を開催する等して販路開拓の取組みを行った。

実証事業においては、レストランのシェフによる日本短角種及び褐毛和種牛肉を使用した調理法の開発、レシピの提供に係る取組みを実施したほか、展示商談会（焼肉ビジネスフェア）へ出展し、産地別の日本短角種及び褐毛和種牛肉の展示・試食を実施した。なお、調理法の開発等に係る取組みへの参加レストランは昨年度の３軒に対し今年度は６軒に増加しており、この取組みへの関心が高まってきている。

３　和牛遺伝資源流出防止対策緊急支援事業（１０，６３９千円）

和牛遺伝資源（和牛精液、和牛受精卵）の適正管理及び流出防止等を図るため、公募により、１取組主体が、適正な人工授精業務が行われているか地域内血統の把握・確認するために抽出による親子判定を実施した。

公募により、１取組主体が、和牛精液ストローの容器に和牛精液等関連情報を表示するのに必要な印字機能を備えた機器を導入（リース方式）し、適正管理及び不正流通防止の強化等を図る取組みを実施した。

４　優良肉用子牛生産推進緊急対策事業（７，４０８千円）

令和４年６月から令和４年１２月まで実施された本事業について、①事業の適正実施を図るため全国説明会を１０月３日にオンライン方式により開催、②都道府県指定協会に対する調査指導を５県協会で実施、③奨励金の交付に必要な電算処理システムの追加改修等を委託により実施した。なお、本事業による奨励金交付は、北海道他２７県に対し黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種、乳用種に交付された。

５　和子牛生産者臨時経営支援事業（４，４３０千円）

令和５年１月以降実施されている本事業について、①事業の適正実施を図るため全国説明会を１月１９日にオンライン方式により開催、②支援交付金の交付に必要な電算処理システムの追加改修等を委託により実施した。

６　和牛経産牛肉の機能性成分等分析事業（１７，５６０千円）

３か年事業の最終年度である令和４年度は７月にオンライン方式により推進委員会・マニュアル検討部会を開催し、事業の進捗状況を踏まえた課題整理と実施方針の確認を行った。

さらに、令和５年１月２３日に第２回マニュアル検討部会を開催し、本事業で実施した和牛経産牛の肥育実証試験や和牛経産牛肉の理化学分析等により得られた成果を取りまとめた事業成果報告書案及び普及啓発用試作ＤＶＤの内容について検討を行った。

令和５年３月２７日には、第２回推進委員会を開催し、事業総括確認と事業評価検証を行った。

事業で得られた成果については、令和５年３月２２日にオンラインによるシンポジウムを開催し、参加者に広く周知するとともに、事業成果報告書（７５０部）、事業成果を要約したパンフレット（３，０００部）、普及啓発用ＤＶＤ（１００枚）を作成し、畜産関係団体等へ配布した。

７　和牛肉の新価値観構築事業（５９，０４２千円）

令和４年７月にオンライン方式により和牛肉の新価値観構築推進委員会を開催し、３年度実績及び４年度計画についての報告、検討等を実施した。

和牛肉の新たな客観的評価手法の検討のため、牛肉の光学測定値や理化学分析データ等を収集した。

また、令和４年１０月に開催された第１２回全国和牛能力共進会会場において、一般消費者等を対象とした牛肉の嗜好型官能調査や和牛ＰＲ館の設置・運営への支援等を実施した。

８　持続的肉用牛生産関連情報発信事業（７，８３８千円）

令和４年６月１３日に推進委員会と検討部会を合同で開催し、事業実施内容や、達成目標等の確認等を行った。

さらに、令和４年９月１４日に第２回検討部会を開催し、環境優良事例・関連現地調査等の進め方について検討を行った。

具体的な取り組みとして、協会ＨＰを刷新し、持続可能な肉用牛生産に関連した情報を掲載、発信するとともに、関連パンフレットの作成やオンラインでのシンポジウムを開催するなど、肉用牛生産者や消費者等に対して情報提供を行った。

また、和牛の遺伝的多様性調査については、（公社）全国和牛登録協会及び（独）家畜改良センターとデータ収集、分析等に関する委託契約を締結し調査を行った。

９　「肉用牛改良情報活用協議会」と事務局

肉用牛の改良増殖の強化を図るため、（公社）全国和牛登録協会、（一社）日本あか牛登録協会、（一社）日本短角種登録協会、（公社）日本食肉格付協会、（一社）家畜改良事業団、（公社）畜産技術協会、（一社）全国肉用牛振興基金協会を構成員とする「肉用牛改良情報活用協議会」は相互に共同連携し、次の事業を行った。

なお、当協会はこの協議会の事務局を担当している。

（１）家畜能力等向上強化推進事業（多様な改良情報の収集分析等対策）（５，５９３千円）

黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種の協力肥育農家の出荷した枝肉格付情報を収集し、当該肥育牛の血統情報を照合・整理して、肉用牛枝肉情報全国データベースとして集計・分析・蓄積した情報を取りまとめ、３種類の冊子を製本し、協力肥育農家・畜産関係団体へ配布するとともに、同データベースの普及啓発の通知文を全協力肥育農家へ送付した。

繁殖性等検討委員会はオンライン方式により３月に開催し、生産性に関する遺伝的能力評価の指標化に向けた検討を行った。

新たな改良形質（一価不飽和脂肪酸等）を測定するために必要な光学測定器を導入する取組主体の公募を２回実施し、応募の調整を行ったが、整備するには至らなかった。

（２）畜産・酪農生産力強化対策事業（うち繁殖性等向上対策）
（９，２０６千円）

① 新技術を活用した肉用牛の繁殖性の向上（牛群管理情報を利活用するための体制整備）

牛群管理情報を利活用するための体制整備を行うため、肉用牛繁殖性向上検討会を９月にオンライン方式により開催した。

新技術を活用した肉用牛の牛群管理に関する実態調査については６団体実施した。

また、技術交流会を１ケ所で実施した。

② 飼養管理技術の高度化（効率的な生産体系の確立に向けた技術支援）

公募により、全国３地域を取組主体として選定した。

子牛の損耗低減対策については、１地域において画像認識ＡＩを活用した監視カメラを設置する取組みを行った。

肥育用雌牛等を用いた増頭対策については、３地域で肥育用雌牛等（F1 雌牛や更新予定の老齢和牛雌牛）に対して受精卵移植技術を活用して和子牛を生産させるための取組みを行った。

10 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）
（３，６０６，６６０千円）

中長期の国内需要の増加や輸出拡大に向けた和牛の増産を強力に進めるため、畜産クラスター計画に基づき、取組主体の構成員（生産者）が優良な繁殖雌牛を増頭した場合における増頭実績に応じた奨励金交付を行った。

２４．６万円/頭:繁殖雌牛の飼養頭数が期首時点で５０頭未満の経営体の場合
１７．５万円/頭: 同 ５０頭以上の経営体の場合

・取組主体数：４６道府県 ３１０主体
・奨励金 １６，００７頭

11 繁殖肥育一貫経営等育成支援事業（４，４４４千円）

① 繁殖肥育一貫経営への円滑な移行対策

２取組主体が交雑種雌牛への和牛受精卵の移植の取組みを実施した。当協会が実施する現地調査・指導の実施等については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点等から実施を見送った。

② 地域内一貫生産への円滑な移行対策

地域内一貫生産への円滑な移行対策については、取組主体候補者の公募を２回実施したが、取組主体候補者の応募がなかった。

また、人材育成のための技術養成研修、優良事例の調査等については、３月に滋賀県内にて実施した。

12 持続的生産強化対策事業（畜産経営体生産性向上対策）のうち全国データベース構築事業（１３２，３２１千円）

令和３年度までに構築した精液等情報システムについて、継続して適切な運用を図るとともに、システムの利便性向上を図るため、本システム外で発行した証明書が添

付された精液等のシステム内での一貫した情報管理を行うための機能を追加するなどの改修を実施した。

また、さらなるセキュリティ水準の確保を図るため、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度」に対応したクラウドサービスへ移行し、新たな稼働環境を構築した。

本システムの利用推進を図るため、３月にオンライン方式で全国説明会を開催した。

13　持続的生産強化対策事業のうち環境負荷軽減型持続的生産支援事業（全国推進型）（５，８９７千円）

飼料生産基盤を確保しつつ、温室効果ガスの排出削減のために行う取組みを推進する事業について、５月に全国説明会を開催し、関係団体等に対して事業を周知するとともに、事業申請支援のためのパンフレットを作成し、協会会員団体を通じて肉用牛生産者等へ配布した。

また、事業参加を希望する農家集団１団体に対して、事業申請手続き方法について現地説明・指導を実施したほか、事業参加農家７件の環境負荷軽減の取組内容について現地確認を実施した。

14　肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業（４２，９７９千円）

本事業において、①都道府県指定協会に対する調査指導等を９県協会１０回実施、②業務推進円滑化ブロック研修会を１１月に全国４ヵ所で実施、③経理研修会（新人、一般）を２月に実施、④全国の家畜市場の取引実績等の調査を行い、その結果を「家畜市場の概要（令和３年）」として印刷・配布、⑤制度担当者のうち比較的経験の浅い担当者を対象とした新人研修会を３月１５日に開催した。⑥令和５年度より保証基準価格、合理化目標価格が改定になることから、ＰＲ用のパンフレットを作成の上、関係者に配布した。

15　家畜市場取引情報収集等事業（１８７千円）

家畜市場情報の収集・提供システムの運営及び適切な情報の提供を行った。

16　生産者積立金融資事業

令和４年度は、借入の申し込みはなかった。

17　都道府県指定協会運営資金融資事業

令和４年度は、借入の申し込みはなかった。

Ⅴ　肉用牛生産振興のための協力事業

第５８回肉用牛枝肉共励会の開催

関東東北３県の会員で構成する関東東北肉牛肥育協議会からの要請を受けて、第６２回農林水産祭参加・第５８回肉用牛枝肉共励会（出品数：６０頭）を開催した。

最優秀賞は栃木県の株式会社サイトウ農場で農林水産大臣賞が授与された。

開催日　令和５年２月１５日～１７日

開催場所　東京都中央卸売市場食肉市場

Ⅵ　事業推進活動等

１　ホームページを活用して、補給金制度の普及定着・円滑な運用、関連事業の実施等を通じた肉用牛の繁殖基盤の強化等に関する情報を提供して、事業の効率的な推進を図るとともに、牛肉のＰＲイベント等への参加により肉用牛についての情報を生産者・消費者等へ発信・提供して肉用牛生産への理解を深めた。

２　肉用牛生産振興関係情報交換会（中央生産団体を対象）及び情報連絡会議（会員及び賛助会員を対象）をオンライン方式により開催し、肉用牛生産の振興や実施事業に関わる情報共有を行った。

（１）肉用牛生産振興関係情報交換会

１）第６回　令和４年４月２６日（火）

①全国肉用牛振興基金協会の令和４年度実施事業について、②配合飼料価格等資材価格の高騰と生産現場の動き、③その他肉用牛をめぐる情勢等について

２）第７回　令和４年６月２９日（水）

①畜産酪農緊急対策について、②飼料関連対策について、③農林漁業者に対する金融支援対策について、④優良肉用子牛生産推進緊急対策事業について、⑤肉用牛経営安定対策補完事業のうち優良繁殖雌牛導入支援について、⑥持続的肉用牛生産関連情報発信事業について

３）第８回　令和４年９月２９日（木）

①当協会の４年度の実施事業について、②優良肉用子牛生産推進緊急対策事業等農水省の緊急対策について、③農林水産省畜産局の令和５年度予算概算要求

４）第９回　令和４年１１月３０日（水）（メール開催）

①令和５年度予算概算要求について、②令和４年度第２次補正予算について、③アニマルウェルフェアの新たな指針について、④子牛価格の動向について

５）第 10 回　令和５年１月２５日（水）

①令和５年度予算概算決定、令和４年度第２次補正予算、令和５年度価格関連対策について、②飼料価格、子牛価格等の動向について、③アニマルウェルフェア、持続的肉用牛生産関連情報発信事業ほか

（２）情報連絡会議

１）第４回　令和４年４月２７日（水）

①令和４年度本会実施事業について、②生産をめぐる情勢について

２）第５回　令和４年１０月３日（月）

①令和４年度本会実施事業について、②農林水産省畜産局の令和５年度予算概算要求について

３）第６回　令和５年２月６日（月）

①令和４年度第２次補正予算の概要について、②令和５年度予算概算決定の概要について、③令和５年度畜産物価格関連対策について、②その他肉用牛生産をめぐる最近の情勢

３　肉用牛生産振興のための協力

（１）第１２回全国和牛能力共進会への参加

（公社）全国和牛登録協会の依頼を受け、開会式において会長が祝辞を述べるとともに、専務理事が指導員として参加し、関連事業も活用した和牛肉のＰＲイベントを行った。

４　新規事業の確保

令和５年度事業について、以下のとおり応募し、実施事業として決定された。

（１）ＪＲＡ畜産振興事業

①　肉用牛環境対応生産拡大基盤技術普及事業

（２）農林水産省事業

①　持続的生産支援対策事業のうち畜産ＧＡＰ拡大推進加速化（持続可能性配慮型飼養管理推進）事業

②　持続的生産強化対策事業のうち畜産経営体生産性向上対策（畜産データ活用体制整備事業）（畜産クラウド全国推進コンソーシアム）

５　会員が行う共進会入賞者への褒章の授与

会員が行う各種共進会において入賞された肉用牛生産者に対し、その栄誉を称え賞状及び副賞（楯）を授与した。

申請数	３１団体
賞状授与数	６１枚
副賞授与数	６２個